



第181號 (第 16 卷)

(昭和11年) 5 月 號

## 米國アマチュアの大観測陣

之れは天文學ではなく、氣象のアマチュアの話であるが——米國より近着の Monthly Weather Review 本年1月號を見ると、“Our Veteran Cooperative Observers”といふ表題で、ワシントン府 Weather Bureau の J. B. Kincer 氏が、米國內にゐる篤志氣象観測者の大きい観測陣と、其の中にある長年にわたる繼續者のことを書いてゐる。

米國に於ける氣象観測を最初に實行したのは1644年に、Delaware 州 Wilmington 市に近い Swedes Fort の John Campanius といふ牧師であつたが、其の後1世紀半の間、殆んど全く斷片的な記録が残されてあるばかり。1817年に至つて、政府の General Land Office の長である Josiah Meigs 氏が國內一般に氣象観測の重要なることを書いた回狀を出し、其の2年後に、陸軍省の軍醫總監が、軍營地各所で氣象観測をする計畫を立てた。それから20年後、即ち1842年に James Espy 氏が國家の氣象學者に任命せられ、軍醫總監のオフィスに執務することとなつた。次で1847年に Smithsonian Institution 幹事 Joseph Henry 博士が此の學院の事業として“米國に於ける storm の問題を解くために”各地の氣象観測網を計畫した。之れがスミソン學院の氣象學界に活躍する始まりとなつた。1865年には、米國農務長官 Isaac Newton 氏が前記 Henry 氏の計畫を擴張し強化することをすゝめ、1870年に議會は Newton 氏の提議を容れて、國內諸所の陸軍々營地全部に於いて氣象観測を行ふこととなつた。其の後20年、1890年に至つて、ワシントン府に Weather Bureau が置かれることが議會で決せられ、1891年7月1日から事務が開始された。

今日此の Weather Bureau が中心となつて米國內に約5000人の篤志アマチュア氣象観測者が活躍してゐる。今此等の多人數が観測と整理と報告等のために平均一日に15分間を費してゐるとすれば、此等の人々の延時間は 15000

ケ日となる。此等5000人中、25年間繼續の人が300人あり、殊に、最も長年月にわたる観測者として

満50ヶ年以上の観測を繼續してゐる人が.....3人、	
„ 49—50年間の	„ .....2人、(内、婦人が1人)
„ 48—49年	„ .....3人、
„ 47—48年	„ .....3人、
„ 46—47年	„ .....1人、
„ 45—46年	„ .....4人

尚ほ上記5000人中、婦人が300人で、更に其の中の3人は40ヶ年以上の繼續者であるといふ。

こうして見ると、天文のアマチュアは未だ熱心と普及とに於いて遠く及ばないし、殊に我が國に於いて此の感が深い。(山本)

## 談話會だより

昭和11年第2回談話會 (3月10日) 花山天文臺にて開催

- (1) 堀井政三氏 星晨輻射平衡によるスペクトル配圖
- (2) 公文武彦氏 Mass and Velocity of Meteorites and the Air Density along their Luminous Paths.
- (3) 柴田淑次氏 My Programs of the Coming Solar Eclipse on June, 1936
- (4) 山本一清教授 Determinations of Stellar Parallax by E. Johansson

昭和11年第3回談話會 (4月16日) 樂友會館にて開催

- (1) 小山秋雄氏 19 Lyrae を中心とする變光星乾板
- (2) 稻葉通義氏 On the Recent Eclipse of  $\zeta$  Aurigae
- (3) 荒木俊馬助教授 H. D. 45910 の Spectrum の變化に就いて

この日の談話會は花山と教室合同にて開かれ、來會者學内18名、學外1名の盛況であり、談話會の終了後、京大花山日食観測隊計畫に就き山本教授の沿革談あり、最後の計畫、組織につき討議が行はれ、別頁に發表の如き決定を見た。

因みに、第4回は9月12日花山で開かれる筈。